

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

銅

【海外】

1. 価格推移



(2018年12月～2020年11月の値は月平均)

- ・ 中国の堅調な需要やCOVID-19ワクチン、米追加経済対策の期待により前半は上昇基調
- ・ 後半はCOVID-19変異種感染拡大で小幅に下落

2. 需給動向

国際銅研究会(ICSIG)の12月21日発表によると、2020年1～9月の世界の銅需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～9月の世界の銅需給実績表>

単位:千トン

	2020年1～9月 実績	2019年1～9月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	15,059	15,204	-1.0%	20,223
地金生産	18,142	17,927	+1.2%	24,434
地金消費	18,528	18,254	+1.5%	24,486
需給バランス	-387	-328		-52

(うち、中国の銅需給実績)

	2020年1～9月 実績	2019年1～9月 実績	増減率
鉱石生産	1,261	1,235	+2.0%
地金生産	7,413	7,276	+1.9%
地金消費	10,649	9,409	+13.2%

(出典) 国際銅研究会

3. 供給障害

◆ MMG、道路封鎖によりラス・バンバス銅鉱山で不可抗力宣言(ペルー)

中国五鉱集団子会社の MMG(豪) は 12 月 24 日、ペルーのチャルウアウアチヨ地区住民による道路封鎖を受け、ラス・バンバス銅鉱山(ペルー)の一部の銅精鉱供給契約について不可抗力宣言を行った。MMG は 12 月 12 日から実施された道路封鎖により輸送が滞り、操業を縮小していることを発表していた。ラス・バンバス銅鉱山では操業を開始した 2015～2016 年以降、地元住民による地役権の補償や環境汚染への抗議のための道路封鎖によって出荷停止がたびたび発生しており、2019 年は 95 日間操業を停止した。また、2020 年 4 月には COVID-19 感染拡大による操業停止を受けて不可抗力宣言を行い、2020 年の当初生産計画目標を撤回。当初は 35～37 万tとしていたが、新たな目標は公表していない。2019 年は年間 38 万tの銅精鉱を生産している。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

12月1日	12月4日	12月11日	12月16日	12月21日	12月23日
830	840	860	850	870	850

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2020年11月分=令和2年11月分)

	2020年11月	2020年10月比	2019年11月比
生産	129,035 t	-1.3%	+12.4%
出荷	127,013 t	-5.1%	+5.9%
在庫	99,745 t	+2.5%	+10.8%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が3か月連続の減少、前年同月比は6か月連続の増加となった。出荷は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は5か月連続の増加。内訳は内販が前月比0.8%増、前年同月比9.0%減の7.3万tで、それぞれ3か月連続の増加と17か月連続の減少。輸出は前月比12.1%減、前年同月比36.1%増の5.4万tで、それぞれ2か月連続の減少と12か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年同月比13.0%減の4.6万tで14か月連続の減少、伸銅品向けは0.5%減の2.5万tで20か月連続の減少。在庫は前月比が3か月ぶりの増加、前年同月比は11か月連続の増加となった。

3. 需要部門別動向

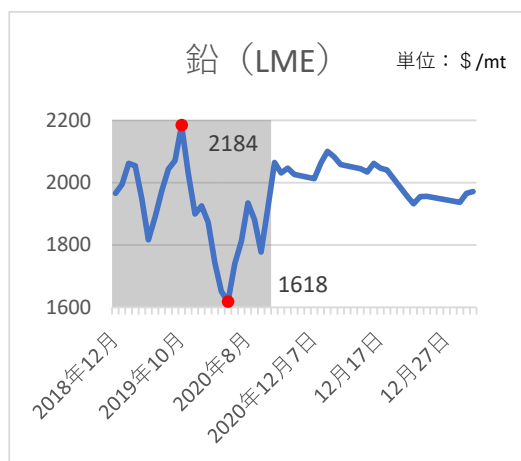
(一社)日本電線工業会によると、2020年11月の銅電線出荷は前年同月2019年11月比4.8%減の5.6万t(推定)と14か月連続で減少した。うち内需は前年同月比5.2%減の5.5万tで10か月連続の減少、輸出は17.5%増の1,000tで11か月ぶりの増加。内需の部門別では、通信が2か月ぶり、電力が5か月ぶり、電気機械が3か月連続、自動車が2か月連続の増加、建設・電販が10か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年11月の伸銅品生産は前年同月2019年11月比1.2%減の6.1万t(速報)と24か月連続の減少となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が前年同月比9.8%増で2か月連続の増加。自動車端子向けの黄銅条は2.0%増で22か月ぶりの増加。コネクタ向けの青銅板条は12.0%増で2か月連続の増加。エアコン向けの銅管は8.2%減で10か月連続の減少となった。

鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ 前月から引き続き前半は \$2,000 近辺を推移
- ・ 後半は COVID-19 変異種感染拡大で下落

(2018年12月~2020年11月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の12月16日発表によると、2020年1~10月の世界の鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1~10月の世界の鉛需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1~10月 実績	2019年1~10月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	3,695	3,866	-4.4%	4,501
地金生産	9,553	10,007	-4.5%	11,661
地金消費	9,389	10,049	-6.6%	11,385
需給バランス	+163	-42		+276

(うち、中国の鉛需給実績)

	2020年1~10月 実績	2019年1~10月 実績	増減率
鉱石生産	1,602	1,612	-0.6%
精鉱輸入	629	780	-19.4%
地金生産	3,905	3,989	-2.1%
地金輸入	29	112	-73.9%
地金消費	3,967	4,040	-1.8%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

12月1日	12月10日	12月22日
276	279	267

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年11月分=令和2年11月分)

	2020年11月	2020年10月比	2019年11月比
生産	16,014 t	-6.1%	-4.0%
出荷	18,089 t	+0.7%	+8.2%
在庫	17,462 t	-11.0%	-6.5%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は2か月連続の減少となった。出荷は前月比、前年同月比ともに増加。前年同月比は輸出の増加により2か月ぶりの増加となった。在庫は前月比、前年同月比ともに減少。前年同月比は7か月ぶりの減少となった。

3. 需要部門動向

10月の自動車生産台数は前年同月比7.7%増の83.8万台で、13か月ぶりの増加となった。また、二輪車生産台数は前年同月比17.6%減の4.3万台で、9か月連続の減少となった。

(一社)電池工業会によると、10月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、二輪車用を合わせた総合計で215.1万個(前年同月比11%増)と13か月ぶりに増加、自動車用以外の鉛蓄電池も44.7万個(0.4%増)と9か月ぶりに増加した。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は259.8万個(9%増)と13か月ぶりに増加した。

鉛関連製品生産統計(2020年10月分=令和2年10月分)

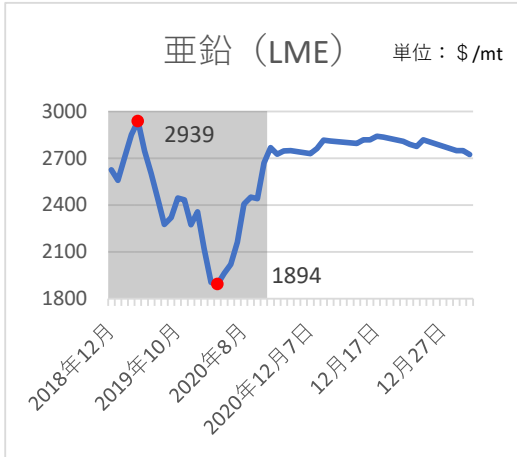
	2020年10月	2020年9月比	2019年10月比
自動車	838,205台	+2.1%	+7.7%
自動車用鉛蓄電池(鉛量 t)	17,379 t	+12.3%	-1.1%

(出典)一般社団法人日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査

亜鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ 前月から引き続き前半は \$2,800 近辺を推移
- ・ 後半は COVID-19 変異種感染拡大で小幅に下落

(2018年12月～2020年11月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の12月16日発表によると、2020年1～10月の世界の亜鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～10月の世界の亜鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～10月 実績	2019年1～10月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	10,047	10,662	-5.8%	12,329
地金生産	11,184	11,074	+1.0%	13,597
地金消費	10,704	11,290	-5.2%	12,977
需給バランス	+480	-216		+620

(うち、中国の亜鉛需給実績)

	2020年1～10月 実績	2019年1～10月 実績	増減率
鉱石生産	3,437	3,519	-2.3%
精鉱輸入	1,556	1,184	+31.5%
地金生産	5,129	4,985	+2.9%
地金輸入	395	469	-15.9%
地金消費	5,418	5,359	+1.1%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

12月1日	12月7日	12月10日	12月16日	12月22日
343	334	346	343	346

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年11月分=令和2年11月分)

	2020年11月	2020年10月比	2019年11月比
生産	46,541 t	+1.5%	+11.9%
出荷	45,161 t	-2.2%	+11.0%
在庫	68,029 t	+2.1%	+2.5%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が4か月連続の増加、前年同月比は2か月ぶりの増加となった。出荷は輸出の減少により前月比は5か月ぶりの減少。前年同月比は輸出の増加により2か月連続の増加となった。在庫は前月比、前年同月比ともに増加。前年同月比は15か月連続の増加となった。

3. 需要部門動向

10月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比5.3%減の71.9万tで、13か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年10月の伸銅品生産は前年同月比5.5%減の59,607t(確報値)で、23か月連続の減少となった。黄銅製品では、黄銅条が2.1%減の7,510tで21か月連続の減少。黄銅棒が9.5%減の13,534tで9か月連続の減少となった。

亜鉛関連製品生産統計(2020年10月分=令和2年10月分)

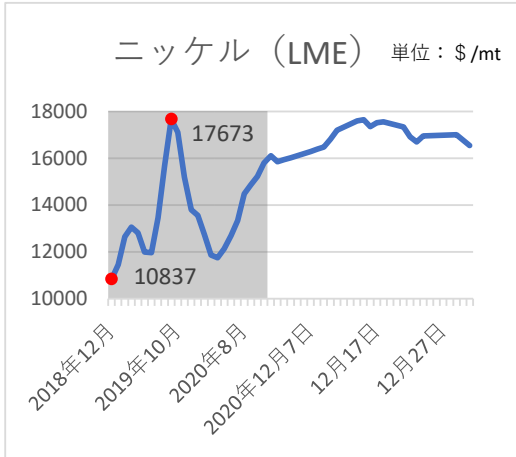
	2020年10月	2020年9月比	2019年10月比
亜鉛めっき鋼板	719千t	+20.9%	-5.3%
黄銅製品	23,483 t	+15.3%	-8.6%
亜鉛ダイカスト	1,271 t	-17.3%	-12.5%
酸化亜鉛(亜鉛華)	5,224 t	+68.2%	+1.8%

(出典)一般社団法人日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査

ニッケル

【海外】

1. 価格推移



- ・ 中国の堅調な需要などにより前半は上昇基調
- ・ 12月15日は2019年10月以来の高値となる\$17,650

(2018年12月～2020年11月の値は月平均)

2. 需給動向

国際ニッケル研究会(INSG)の12月16日発表によると、2020年1～10月の世界のニッケル需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～10月の世界のニッケル需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1～10月 実績	2019年1～10月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	1,965	2,122	-7.4%	2,352
地金生産	2,017	1,969	+2.4%	2,436
地金消費	1,906	2,010	-5.2%	2,318
需給バランス	+111	-41		+117

(うち、中国のニッケル需給実績)

	2020年1～10月 実績	2019年1～10月 実績	増減率
鉱石生産	86	87	-1.5%
地金生産	599	673	-11.0%
地金消費	1,116	1,103	+1.1%

(出典) 国際ニッケル研究会

3. 供給障害

◆ ヴァーレ、売却抗議デモを受けてゴロ・ニッケル鉱山の操業を停止(ニューカレドニア)

ヴァーレ(ブラジル)は12月10日、ニューカレドニア独立派によるゴロ・ニッケル鉱山の売却抗議デモを受けて、同鉱山から労働者を避難させ、操業を停止したことを発表した。同社によると、デモによる負傷者や設備被害は発生しておらず、鉱山は現在、軍警察によって警備されている。ヴァーレは12月8日、資源・エネルギー商社のトラフィギュラ(シンガポール)などの多国籍コンソーシアムが設立したプロニー・リソースズにゴロ・ニッケル鉱山を売却する手続きを進めていることを発表。ニューカレドニアとフランスの両政府からの支援も受け、2021年第1四半期に売却手続きを完了する予定としていた。これに対してニューカレドニア独立派は、これまでに同鉱山の買収が噂されてきた自国企業のソフィノール(ニューカレドニア)に売却すべきとして抗議。10数人が逮捕される暴動となった。

同鉱山では当初計画されていた年間6万tの生産能力は現在も達成されておらず、2019年は2.3万tのニッケルを生産している。(協会注:ゴロ・ニッケル鉱山は、2005年から住友金属鉱山、三井物産が権益を保有していたが、投資額が過大で、操業不安定要因も多いことから採算が見込めないとして2016年に撤退。)

【国内】

1. メタルニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年11月分=令和2年11月分)

	2020年11月	2020年10月比	2019年11月比
生産	3,919 t	-14.8%	-16.2%
出荷	5,373 t	-14.0%	+5.1%
在庫	4,313 t	-25.2%	-33.6%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比、前年同月比ともに3か月連続の減少。出荷は前月比が3か月ぶりの減少、前年同月比は3か月連続の増加。出荷の内訳は特殊鋼向けが前年同月比1.5%減で7か月連続の減少となった。在庫は前月比が3か月連続の減少、前年同月比は2か月連続の減少となった。

2. フェロニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年11月分=令和2年11月分)

	2020年11月	2020年10月比	2019年11月比
生産	3,075 t	-2.5%	-30.7%
出荷	5,152 t	+76.0%	-3.8%
在庫	4,739 t	-30.5%	-33.3%

(出典)日本鉱業協会受払(ニッケル含有量ベース推計値)

生産は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は9か月連続の減少。出荷は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は11か月連続の減少。在庫は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は2か月連続の減少となった。

金

【海外】 価格推移



- ・ 前月から引き続き前半は \$ 1,800 近辺を推移
- ・ 後半は COVID-19 変異種感染拡大で小幅に上昇。\$ 1,900 近辺を推移

(2018年12月～2020年11月の値は月平均)

【国内】

1. 建値推移(円/g)

12月1日	12月2日	12月3日	12月4日	12月7日	12月8日	12月9日	12月10日
6,000	6,110	6,169	6,164	6,174	6,260	6,283	6,189
12月11日	12月14日	12月15日	12月16日	12月17日	12月18日	12月21日	12月22日
6,171	6,172	6,142	6,202	6,227	6,271	6,331	6,271
12月23日	12月24日	12月25日	12月28日				
6,244	6,276	6,290	6,335				

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2020年11月分=令和2年11月分)

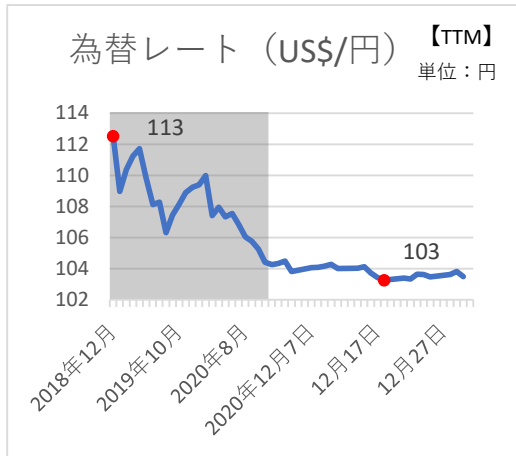
	2020年11月	2020年10月比	2019年11月比
生産	8,691kg	-4.0%	-4.4%
出荷	8,549kg	-8.2%	-10.8%
在庫	3,894kg	+3.8%	-4.4%

(出典)経済産業省生産動態統計調査

生産は前月比、前年同月比ともに2か月連続の減少となった。出荷は前月比が3か月ぶりの減少、前年同月比は2か月連続の減少となった。在庫は前月比が3か月ぶりの増加、前年同月比は8か月連続の減少となった。

為替相場

為替相場推移



(2018年12月～2020年11月の値は月平均)

- ・ 前月から引き続き前半は\$1=104円近辺を推移
- ・ 後半は米経済指標悪化報道などにより\$1=103円台に下落